

《平成 30 年 6 月定例会(平成 30 年 6 月 18 日)》

〈要旨〉

- ・なら国際映画祭について
- ・LGBT を含む性的マイノリティの職員研修について

〈会議録〉

◆林政行

無所属の林政行です。

早速ですが、一括質問にて市長にお聞きします。

なら国際映画祭では、ベルリン国際映画祭と連携したユース審査員や映画制作ワークショップなど、子供を対象としたプログラムがあると聞いております。子供たちにとって、ベルリン国際映画祭でノミネートされた作品を審査することは貴重な経験になります。奈良市が補助金を出すのであれば、将来のことを見据え、奈良市の子供たちにできるだけ多くの機会を提供できるよう、しっかりとかわる形にしていきたいと思っております。

それに加えて、国際的に有名な映画監督、河瀬直美さんの活躍をもっと生かしていただきたいと思っております。例えばラグビーや野球など、スポーツ選手は何となく想像できるかもしれませんが、映画作家と言われても子供たちにとってクエスチョンが多々あると思います。やはり子供たちには、将来の選択肢や可能性を広げていただくためにも、河瀬直美さんの話を聞けるような機会があってもよいと思っており、積極的に働きかける努力をしていただきたいと思っております。それらが間違いなく、これからのなら国際映画祭のためにもなります。これらについて市長のお考えをお聞かせください。

3月定例会では、教育長から、LGBTを含む性的マイノリティの生徒がおられることを前提に教育委員会として取り組んでいくという心強い答弁をいただきましたが、私は市長にも、LGBTを含む性的マイノリティに関して積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

そこで、策を講じる前に、まずは職員を対象としたLGBTを含む性的マイノリティについての研修を今年度から実施していただきたいのですが、市長のお考えをお聞かせください。

◎市長(仲川元庸)

ただいまの林議員からの御質問にお答え申し上げます。

なら国際映画祭につきまして、子供たちにできる限り多くの機会を提供できるようにということでございます。

御指摘のように子供たちが芸術性の高い文化に触れたり、実際に体験する機会をふやしていくこ

とは、芸術そのものに対する感動とあわせ、異なる文化や価値感を理解していくということになり、将来的には奈良市の文化振興にとどまらず世界的な効果を生み出すものだと考えております。なら国際映画祭は、それをまさに実践されている事業の一つだと考えております。

先日の文化振興計画推進委員会でのプレゼンテーションにおきまして、団体のほうからは、映画祭の使命は次世代の育成でもあり、我々は奈良の地で世界の映画制作者の独創的な映画世界と出会う機会を創出したい。違う生活文化であり、違う価値感を持っているけれども、人間同士であればわかり合える普遍的な思いを映画を通じて共鳴できる場としていきたいと強くおっしゃっておられました。奈良市といたしましても、共通の思いでこの事業を支援したいと考えており、若い世代に対するきっかけづくりとともに、アーティストと身近に接する機会の創出についても提案をしていきたいと考えております。

次に、LGBTに対する対応でございますが、昨今、社会的な関心事となっていることもあり、当事者の方が興味本位で見られるなど、偏見や差別などによって社会生活のさまざまな面で人権にもかわる問題も発生をしていると認識しております。市民生活に必要なサービスを最前線で提供する基礎自治体として、LGBTの方々安心して自分らしく過ごせるよう配慮することは必要であり、市の職員がLGBTを含む性的マイノリティーについての考え方や正しい知識を習得することが大切だと考えております。

本年度につきましては、管理職を対象に外部講師による研修を行うほか、来年度以降におきましては対象を拡大し、職員向けの研修も実施していきたいと考えております。さらに、市民や教員も対象とした取り組みを全庁的に進めていきたいと考えております。

◆林政行

職員研修の実施、そして、さらに踏み込んで全庁的に取り組んでいただける、心強い御答弁ありがとうございます。

なら国際映画祭については、10年後、20年後、その先にもつながると判断して奈良市は補助金を出していると思います。しかし、いずれは自主運営を目指す時期が来るかもしれません。そのときに備え、自主運営できる環境を整える後押しは奈良市の責務です。

東市小学校の生徒やロケ地の方々が出演し、東市小学校を舞台に生徒会選挙を題材とした河瀬直美さんの「主人公は君だ!」という作品があります。その作品から10年以上たち、作品に出演した生徒が河瀬直美さんの握手会にあらわれ、あの作品がきっかけで政治家を目指していますと言ったそうです。河瀬直美さんに映画の魅力や奈良市の魅力を子供たちに伝えていただき、その子供たちが映画にかかわる仕事につき、なら国際映画祭に戻ってくる可能性もありますし、映画の魅力を知り、将来、なら国際映画祭に寄附やボランティアでかかわってくれるかもしれません。ほかにも、なら国際映画祭にはさまざまな可能性も考えられます。補助金を出すだけでなく、奈良市も積極的に関与していただくようよろしくお願いします。